

災害復旧事業によせて

# 平成16年災 鞍谷川災害復旧助成事業について

～安全で安心に暮らせるまちづくり～



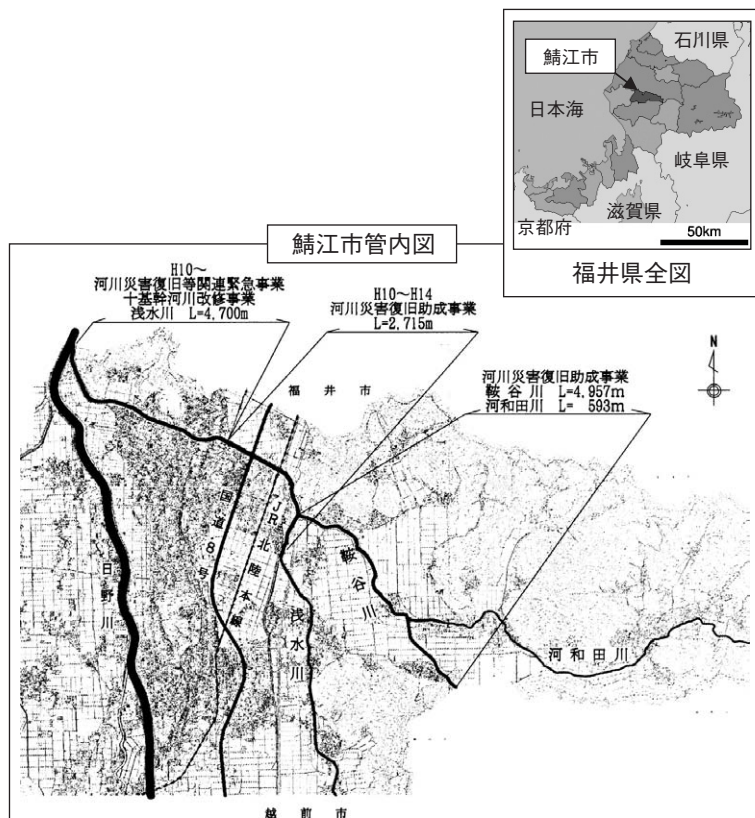
福井県鯖江市長  
牧野百男

## 1. はじめに

このたび、一級河川鞍谷川災害復旧助成事業について、沿川自治体としてご紹介の機会を頂戴しましたことに対して、深く感謝とお礼を申し上げます。

鯖江市は、福井県のほぼ中央に位置し、北は、福井市、南は越前市に隣接し、東西約19.2km、南北約8.3km、面積84.75km<sup>2</sup>と東西に長く、北陸自動車道、国道8号、JR北陸線が南北に併走する交通の要所となっています。その中、市の中央の丘

陵地の西側を日野川が南北に流れ、東方から西に流れる河和田川が、南方から流れる鞍谷川に合流しさらに浅水川と合流し、市の中央の丘陵地を掘割して日野川に合流しています。東部は三方が山地に囲まれた盆地、中央部は西山を中心とした丘陵地、西部は平野となっており、越前平野の一部を形成しています。日野川と国道8号の間に市街地を形成し、周辺に集落が点在していますが、近年、小規模な開発が行われ、宅地の増加が見られます。



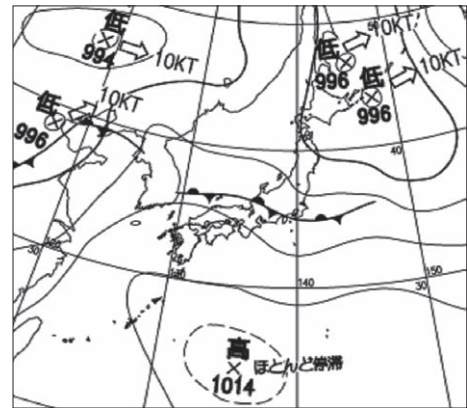
本市は、福井市のベッドタウンともなっていますが、眼鏡・繊維・漆器など製造業も盛んで、特に眼鏡枠については本市を中心として日本一の産地で、国内製造シェアのほぼ9割を占めています。

歴史的には、今から2千年前、10代崇神天皇の時代に四道将軍の一人大彦命が北陸道賊徒討伐にこの地に巡行された際に、賊徒は神矢によってたおれ、その矢が鯖の尾に似ているところから地名を鯖矢と呼び、後に鯖江になったと伝えられています。承元元年（1207年）、親鸞聖人が越後へ配流の途上、鯖江を通過される時、豪族波多野景之の館（車の道場）で法を説かれ、これがきっかけとなり、弘安2年（1279年）に親鸞聖人の5子道性が、現在の誠照寺の地に堂宇を建て、この地に仏教を広められました。以後、鯖江は門前町として開け賑わってきました。また、江戸時代の初期は、徳川家康の次男結城秀康の所領に属し、元禄三大文豪として名高い浄瑠璃・歌舞伎作者の近松門左衛門が幼少年期を過しています。

2. 平成16年7月福井豪雨

平成16年7月13日からの新潟・福島豪雨をもたらした梅雨前線は、北陸地方をゆっくり南下し、7月18日未明から昼前にかけて福井市、美山町（現在福井市）、今立町（現在越前市）、池田町、そして本市を中心に局地的な豪雨をもたらしました。

鯖江市の東部の河和田川においては、18日7時ごろから越水し、山に挟まれた河和田地区全体が



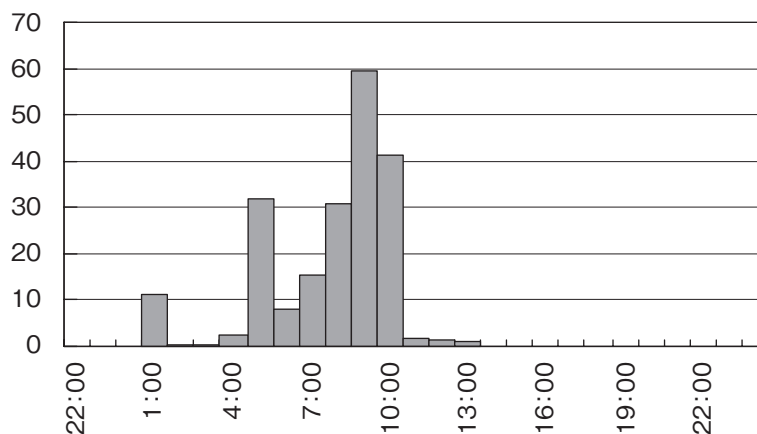
天気図

川と化し、8時には災害対策本部が設置され、9時ごろに鯖江市東部の河和田地区全体に避難勧告が出され、その後他の地区にも避難勧告が出されました。

また、下流の鞍谷川についても増水し、昼ごろより土のう積みを行いました。甲斐なく越水し、人家等が浸水する被害となりました。

このため、本市では鞍谷川、河和田川、天神川が氾濫し、本市の東部地区を中心に、死者1人、負傷者13人、全壊4棟、半壊44棟、一部損壊80棟、床上浸水352棟、床下浸水629棟、被害総額約112億円という、未曾有の災害がもたらされました（鯖江市集計）。

この水害で、最大で463名が一時的に公民館や小学校などに避難しましたが、応急対応などにつ



ハイエトグラフ（浅水川 黒津地点）

いて県を始め近隣の市町村などから物資や人的な応援を得たほか、述べ1万人あまりのボランティアの方々により、土砂の処理などが行われ、早期に避難解除ができたことに、感謝を申し上げます。

平成10年の水害を契機に浅水川については、助成事業や災害復旧等関連緊急事業をいれて、改修済みであったので、堤防すれすれまで水位が上昇しましたが、越水せず浸水被害に至らなかったことは、不幸中の幸でした。



鞍谷川 水防状況

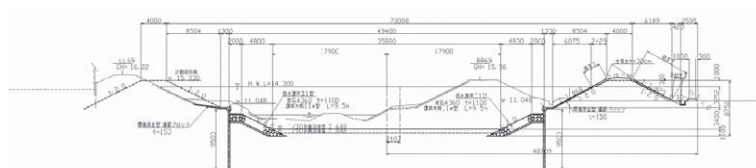
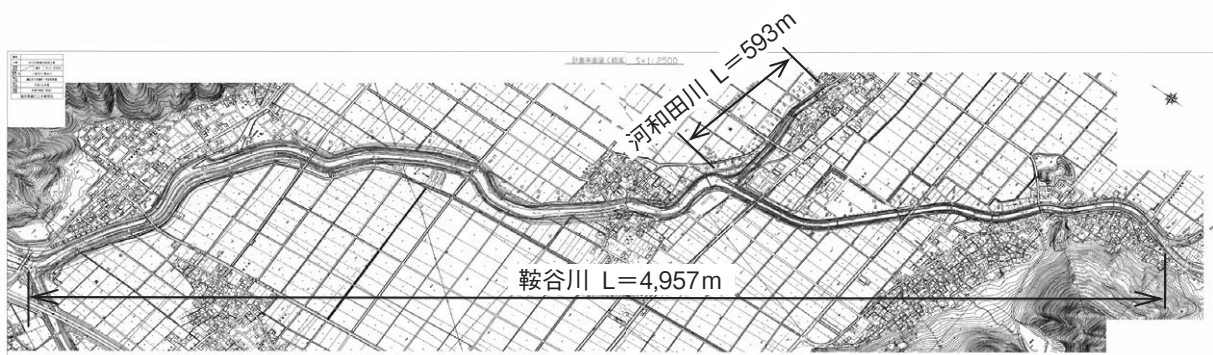


河和田川 氾濫状況



ボランティア状況

### 3. 鞍谷川災害助成事業



鞍谷川 下流部横断面図



河和田川や鞍谷川の上流部では、施設災害が多く発生しましたが、中流部では、断面不足による越水が主な被害となったことから、県内 2 個目の越水災害としての災害復旧事業の申請となりました。

また、越水対策としての堤防の嵩上げだけでは、所定の治水効果が見込めないとして、財務省のご理解および国土交通省のご指導や県当局のご努力により、一連区間の再度災害防止を目的として、鞍谷川約 5 km（越前市部分を含む）と河和田川約 0.6km について、災害復旧助成事業の採択を受けました。

#### 事業概要（越前市分を含む）

河 川 名：一級河川 鞍谷川および河和田川

事業延長：4,957m + 593m

事業期間：平成16年度～平成20年度

工事内容：引堤および河床掘削による河積拡大

護岸工

橋梁架替 13橋

取水堰 2基

排水樋門 1基

引堤は片側を基本とし、わん曲を極力解消した河川線形としています。併せて河床掘削を行い、河積の拡大を図っています。

護岸は、環境保全型の接続ブロックを用い、堤体漏水の懸念がある区間は遮水矢板を打ち込み、捨石護岸としています。

人家連担部においても引堤を伴うため、用地買収、住宅移転が必要となり、地権者や関係者との協議など大変でしたが、協議も整い、現在は順調に工事が進められています。

この復旧事業において、治水上の安全確保は言うまでもなく、関係者のご努力により懸案であった橋梁等の整備ができたことは大きな意味があると思います。

また、改修はほぼ終わっているものの、残っている工事についても、住民の安心安全のため、早期に完成していただきますようお願いいたします。



改修前（水窪橋 下流）



改修後（水窪橋 下流）

#### 4. おわりに

現在、水害の被害軽減のため、各種施策を進めておりますが、福井豪雨を契機として行われた今回の改修により、一定の河川の安全度が確保され、福井豪雨で被害を受けた地場産業などの復旧や市の発展に大いに役立つものと大変感謝しております。

今回の福井豪雨は、短時間に大雨が降るという局所的な雨で、日雨量では80年確率にもなるというもので、これについては、到底対応が難しいと思われませんが、死者が出ていることを踏まえると今後、さらにハザードマップ等を活用して住民を含めた避難体制の整備等について、検討していく必要があると思っております。

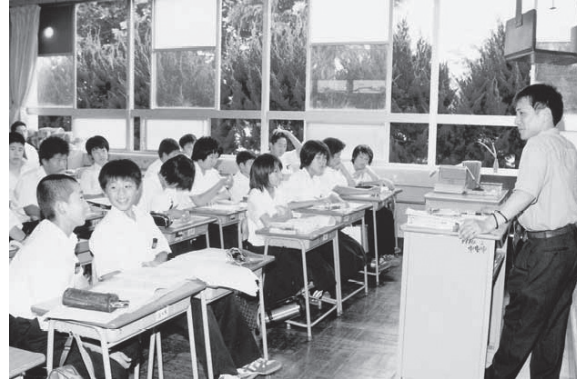
最後に、本事業に関しまして、おほねおりいただいた国や県をはじめ関係の皆様方に厚くお礼を

申し上げますとともに、今後も「安全で安心に暮らせるまちづくり」を目標に掲げ、取り組んでま

いりますので、より一層のご支援をお願いいたします。



水防訓練状況



出前講座状況

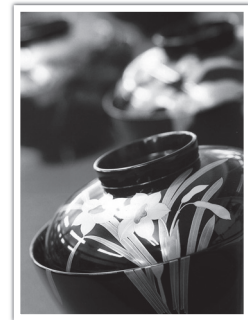
～ 世界に誇る ものづくり のまち ～



多様な繊維製品



眼鏡日本一 国内9割、世界2割のシェア



約1500年の歴史と伝統  
越前漆器



日本海側随一のつつじの名所



“つつじ・さくら・もみじ”の西山公園



成育数日本一  
レッサーパンダ